

教科	理科	学年	3学年
----	----	----	-----

教科書	啓林館「未来へひろがる サイエンス 3年」
補助教材	明治図書「よくわかる理科の学習3年」 東京法令出版「理科資料」

年間指導目標	
自然の事物・現象に進んでかかわり、これらの理解を深めるとともに科学的に探究する能力の基礎と態度を育てる。	

学期	単元	内容	目標・留意点
1 学期	生命の連続性	1章 生物のふえ方と成長 2章 遺伝の規則性と遺伝子 3章 生物の種類の多様性と進化	生殖の観察などを通して、生物のふえ方には、無性生殖と有性生殖の2つがあることを見だし、その違いを理解する。
	化学変化とイオン	1章 水溶液とイオン 2章 電池とイオン 3章 酸・アルカリと塩	水溶液の電気伝導性を調べる実験を行い、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見だして理解する。
2 学期	運動とエネルギー	1章 力の合成と分解 2章 物体の運動 3章 仕事とエネルギー 4章 多様なエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用	記録タイマーなどを使って、物体の速さや運動の様子を調べる方法を身につけ、物体にはたらく力を運動の関係を理解する。
	宇宙を観る	1章 地球から宇宙へ 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方	太陽や星座の日周運動の観察を行い、天体の日周運動が地球の自転による相対運動であることなどを理解する。
3 学期	自然と人間	1章 自然界のつり合い 2章 さまざまな物質の利用と人間 3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめざして	科学技術の発展と人間生活との関わり方について多角的、総合的に捉え、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることの重要性を認識することなど。

主な 評価方法	知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・原則などを理解しているかを <u>定期テスト</u> を中心に評価する。 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を <u>パフォーマンステスト</u> や <u>レポート</u> などで評価する。
	思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行っているか、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的な探究しているかを、 <u>ワークシート</u> などで評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているかを、 <u>レポート</u> や <u>ワークシート</u> 、 <u>ポートフォリオ</u> などで評価する。
担当教諭からのアドバイス等		「主体的に学習に取り組む態度」の評価には、「自己調整する（自分の学習状態を自己診断する）」などの側面があります。例えば、授業の最後に自己評価を書く際、自分の言葉で、何が分かって、何が分からなかったのか、自分がどう変容したかを自分なりに内省して記述することが大切です。